

◇ 博物館だより ◇		
印刷博物館 Printing Museum, Tokyo		
〒112-8531 東京都文京区水道 1-3-3 トッパン小石川ビル		
HP: http://www.printing-museum.org/	TEL: 03-5840-2300(代)	FAX: 03-5840-1567

1. 博物館概要

印刷博物館は、凸版印刷株式会社の創立 100 周年記念事業の一環として、2000 年 10 月に開館した、印刷を総合的に扱った本格的な博物館です。長い歴史の中で、コミュニケーション・メディアとして、社会や文化、歴史を支えてきた印刷の役割や意義、ならびにデジタル化の進展により大きく変わりつつある印刷の現在の姿を紹介するとともに、次世代の印刷メディアの可能性についても広く発信しています。また、印刷を、これまでの技術中心の視点に加え、社会・文化的、さらには表現・芸術的側面からもアプローチを行っています。

施設は、1 階(無料スペース)と地階(有料スペース)から構成されています。1 階には、P&P ギャラリー、ライブラリー、ミュージアムショップがあり、地階には、総合展示ゾーン(図 1)をはじめ、印刷工房や VR シアター、グーテンベルクルーム(研修室)などがあります。



図 1 総合展示ゾーン

2. 展示概要

地階では、印刷と来館者とのかかわりを発見することを目的に、「かんじる(感覚)—プロローグ展示ゾーン」「みつける(発見)—企画展示ゾーン」「わかる(理解)—総合展示ゾーン」「つくる(創造)—印刷工房」という 4 つのキーワードに基づいた展示活動を行っています。

その導入部にあたるプロローグ展示ゾーンでは、高さ 7 メートル、長さ 40 メートルの大壁面に展示された 100 点以上のぼる印刷資料(ほとんどがレプリカ)と、映像展示によって、コミュニケーション・メディアとしての印刷の歴史を紹介しています。つづく企画展示ゾーンは、人と印刷との密接なかかわりを再発見してもらうことを目的として、身近で興味深いテーマから

専門的なテーマまで、印刷に関するさまざまな企画展示を、年 2~3 回開催しています(企画展示開催期間以外は総合展示ゾーンとなります)。当館独自の視点でテーマを設定した総合展示ゾーンでは、歴史の流れにそった、大きく 5 つに分けたブロックを、さらに「社会」「技術」「表現」の 3 つのキーワードで分類し、それぞれのブロックごとに小テーマを設定した展示を展開しています。この展示はテーブル型の展示台と、そこに配置されたモニターで構成されており、来館者は、展示資料とともに、モニターに映し出されるさまざまな解説や情報を座って見ることができます。ゾーン最後の印刷工房「印刷の家」(図 2)は、来館者が実際に活版印刷の体験ができる参加型の展示です。また、活版印刷技術の伝承さらには教育・普及活動も行っており、その活動の様子は、来館者が体験する姿とともに、動態展示として公開されています。

これら 4 つのゾーンにおける展示以外に、1 階 P&P ギャラリーでは、主に印刷の現代の姿をテーマに、さまざまな印刷表現を紹介するとともに、ワークショップや公開制作も行っています。



図 2 印刷工房「印刷の家」

3. 総合展示の構成と主な展示資料

総合展示では、ブロック 1「印刷との出会い」、ブロック 2「文字を活かす」、ブロック 3「色とかたちを写す」、ブロック 4「より速く、より広く」、ブロック 5「印刷の遺伝子」の 5 つのブロックによって、印刷の歴史を紹介しています。

ブロック 1「印刷との出会い」では、印刷が宗教や祈りなど信仰と深く結びついていた点、版を介して表現する現代版画について紹介しています。ここでは、印刷された年代が記録に残る、現存最古の印刷物である「百万塔陀羅尼」などを展示し

ています。

ブロック 2「文字を活かす」では、活版印刷の発明が人類に何をもたらしたのかを、グーテンベルク『42行聖書』(原葉)、ルターのドイツ語訳『新約聖書』、17世紀初頭の西洋式木製手引き印刷機(複製)、徳川家康が造らせた駿河版銅活字(重要文化財)などの貴重な資料により紹介しています。

続くブロック 3「色とかたちを写す」では、文字同様、印刷にとって欠かせないもう一つの要素である図版について取り上げています。ここでは、『解体新書』やフランス『百科全書』、ヨンスン『禽獣魚貝蟲図譜』などの図版資料はじめ、錦絵順序摺りや濃淡の表現などの印刷技術についても展示紹介しています。

産業革命以降、急速な技術発展を遂げた印刷をテーマとしたブロック 4「より速く、より広く」では、ポスターや引札などの広告・宣伝印刷物、『キング』に代表される多種多様な雑誌などの展示資料を通して、近代消費社会を支えた印刷の役割が紹介されています。

そして、ブロック 5「印刷の遺伝子」では、各種エレクトロニクス製品や、グーテンベルク『42行聖書』超高精細デジタルアーカイブなどの展示資料により、これまで印刷が培ってきた技術が印刷の枠を超え、さまざまな分野で受け継がれている点を紹介するとともに、印刷の将来像を展望しています。

4. 活動状況

昨年 10 月に開館 5 周年を迎えた当館では、これまでに 12 回の企画展を開催してきました。そのなかでも「ヴァチカン教皇庁図書館展－書物の誕生：写本から印刷へ」(図 3)と「プランタン＝モレトゥス博物館展 印刷革命がはじまった：グーテンベルクからプランタンへ」は、ヴァチカン教皇庁図書館、ベルギーのプランタン・モレトゥス博物館から門外不出の貴重な資料の数々を借用させていただき、国内で初めて展示したことで大変な話題となり、多くの来館者が訪れました。



図 3 企画展：ヴァチカン教皇庁図書館展

また、P&P ギャラリーにおいても、これまでに 26 回の展覧会を開催しています。印刷のみならず、文字や図像、デザイン、製本などそのテーマもさまざまですが、なかでも、毎年秋にドイツで開催される造本コンクールの受賞図書を紹介する「ドイツの最も美しい本」展は、2002 年より毎年開催しており、大変

な人気を得ています。

こうした展示活動だけでなく、小中学校の学習活動、大学・専門学校の授業、企業の研修といった教育・普及活動にも力を入れています。特に小中学校の学習活動では、地元の文京区立金富小学校との連携による総合学習活動を、2001 年より継続して行っているほか、地元のみならず全国各地の中学校の「職場体験」の体験学習にも協力するなど、地域および地方との連携強化も図っています。当館では、こうした教育・普及活動を通じて、次世代を担う小中学生を中心に、印刷がもたらした社会的・文化的な影響、人と印刷との関わりなどを広く伝えていき、印刷に対する興味と関心を深めてもらえるよう、今後も活動に力を入れていきます。



図 4 駿河版銅活字 (重要文化財)

■ 利用案内

所在地：〒112-8531 東京都文京区水道 1-3-3 トップラン小石川ビル

電話：03-5840-2300(代) FAX：03-5840-1567

開館時間：10 時～18 時 (入場は 17 時 30 分まで)

休館日：毎週月曜日 (ただし祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間 (事前にご案内します)

入場料：一般 300 円、学生 200 円、中高生 100 円

□小学生以下、65 歳以上、障害者手帳等をお持ちの方およびその付き添いの方は入場無料

□20 名以上は団体割引 (各 50 円引き)

□企画展期間中は入場料が変わります。

交通案内：東京メトロ有楽町線「江戸川橋」駅から徒歩約 8 分、東京メトロ・JR「飯田橋」駅より徒歩約 13 分

(文責：緒方宏大)